

1. 選んだ本の書誌情報

岩村 充『金融政策に未来はあるか』岩波新書、2018 年

2. 目次

はじめに

第 1 章	日本の経験	1
	1 高度成長とその終わり	1
	2 流動性の罠とインフレ目標論	11
	3 そして異次元緩和へ	20
第 2 章	物価水準の財政理論	35
	1 誰が貨幣価値を支えているのか	35
	2 物価水準の財政理論と金融政策の役割	51
第 3 章	マイナス金利からヘリマネまで	77
	1 成長の屈折と自然利子率の問題	77
	2 マイナス金利政策の意味と限界	87
	3 ヘリマネはタブーか	109
第 4 章	金融政策に未来はあるか	139
	1 貨幣の最適供給問題	139
	2 仮想通貨から考える	150
	3 通貨が選択される時代で	163

参考文献

3. 著者紹介

1950 年 東京生まれ

1974 年 東京大学経済学部卒業

1992 年 日本公社債研究所開発室長

1998 年 早稲田大学大学院教授

著書 『貨幣進化論—「成長なき時代」の通貨システム』新潮社、2010 年

『中央銀行が終わる日—ビットコインと通貨の未来』新潮社、2016 年

『新しい物価理論—物価水準の財政理論と金融政策の役割』共著、岩波書店、2004 年
など

4. 選定理由

1. アベノミクスの出口戦略はどうなるのか
2. 新たな通貨も登場する中で、金融政策はこのままでよいのか
3. 今後の金融政策において障害になる点は何か
4. 何が金融政策で可能になるのか
5. 日銀と政府の役割とは何か
6. 黒田日銀総裁の異次元緩和の効果とは
7. 金融政策を担ってきた中央銀行の未来はどうなるのか
8. 現代の金融システムとは
9. 「FTPL（物価水準の財政理論）」とは何か
10. 理論と現実の問題点とは